

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および4月22日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は1978年に開設され、その後介護老人保健施設、訪問看護ステーションほか、各種介護関連サービス事業所の開設を行いながら、医療と介護サービスを複合的に提供する体制が整備され、2000年には回復期リハビリテーション病棟を開設し、増床も行われている。

病院機能評価は2003年に初回の認定を受け、その後も更新受審や病院機能評価（付加機能：回復期リハビリテーション）を取得するなど、自己研鑽の姿勢が窺われる。また、施設基準を取得しながら、現在では地域リハビリテーションの中核機関としての積極的な活動姿勢がみられ、これまでの実績は高く評価される。

今回の受審をきっかけに、引き続き病院機能の充実に向けた取り組みを期待するとともに、貴院が地域医療の中核機関として益々の発展を遂げられることを祈念したい。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

法人の設立理念および病院としての理念と行動基準のほか、リハビリテーション部門の基本方針などが定められ、周知がなされている。回復期リハビリテーション病棟の理念および基本方針については、ICFに基づいた考えを取り入れてわかりやすい表現となればさらに良い。専門職の職員配置、認定看護師・療法士等の育成が積極的に行われている。専従医を管理責任者として位置づけ、各管理スタッフが病棟業務を実践しており、組織体制は適切に整備されている。安全管理体制は確立しており、インシデント等の収集・分析・対策および院内ラウンドで遵守状況を確認している。医療安全対策マニュアルも整備されている。療養環境は、車椅子やベッ

ドなど患者の状態に適した機器の充実を期待したい。

施設基準に関する患者情報は医療福祉科が収集し、分析・評価を行って運営会議、病棟にフィードバックする体制である。病院の課題は中長期計画としてあげられ、具体的な対応について検討がなされている。多職種による回復期リハビリテーション病棟教育部会が毎月行われ、教育に関する課題の検討や研修計画が組織的に行われている。認定資格の取得や外部研修会の参加も組織的に推進されており適切である。急性期病院との連携は適切に行われ、自宅復帰後の患者に対するケアの継続性に向けた他施設との円滑な連携に努めている。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

病棟には専従医が配置され、患者管理と病棟運営に従事している。また、担当医制が採用され、診察および評価、入院診療計画書を作成して多職種に指示を行っている。医師はカンファレンスへの関与を含めチーム医療の中心となって活動しており適切である。今後も病棟運営や医師の質向上に向けた継続的な取り組みを期待したい。看護・介護の専門性については、職種間の職責を明確にした協働体制の整備を期待したい。日常業務において患者のケアおよび指導・支援は適宜実施されている。看護・介護の質の向上に対する取り組みは評価される。

療法士の役割・専門性はおおむね適切に発揮されている。早期より退院後の生活を想定した指導・支援が適切に行われ、自宅訪問やウェブシステムを利用した評価と課題の検討が行われている。今後は病棟での申し送りやカンファレンスの進行などについて検討し、他職種との双方向的な情報交換や対策の実践などが一層充実することを期待したい。社会福祉士、管理栄養士は多職種との連携を図りながら、役割・専門性を適切に発揮されている。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院初日に医師の診察と多職種による初期評価が行われ、計画書が作成されている。一般病棟からの転入者においても、初期計画を作成されるとなお良い。2週間以内に多職種カンファレンスが開催され、リハビリテーション実施計画書が作成され、医師により患者・家族に適切に説明されているが、チーム目標を具体的に明文化し、その内容が共有される工夫を期待したい。リハビリテーション・ケアは、医師の指示のもと入院当日から実施され、ADL 拡大に向けて日常的に多職種で検討がなされている。各ベッドサイドにはピクトグラムが設置され、担当看護師が確認・変更し毎日のADL 状況などをわかりやすく表示している。訓練実施記録は看護師などと共通の経過記録用紙に記載し、情報共有がなされる仕組みがある。

課題の評価と検討は、月1回の定期カンファレンスと臨時的に開催されるミニカンファレンスで適宜行われているが、多職種で双方向性の議論が充実することを期待したい。新たな課題についても、多職種が協働して検討を行い、ケアの統一を図る工夫がある。また、高次脳機能障害や認知症患者に対しては公認心理師が状況に応じて対応していることは評価される。今後は、多職種で検討した内容が確認しやすい記録の取り組みを期待したい。多職種による日々のリハビリテーションは適切

に提供されており、情報の共有も実施されている。自宅復帰に向けた課題については入院直後から社会福祉士を中心に評価・検討がなされ、具体的な取り組みも行われている。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	Ⅲ
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	Ⅱ
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	Ⅲ
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	Ⅱ
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	Ⅱ
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	Ⅲ
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	Ⅲ
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	Ⅱ
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	Ⅱ
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	Ⅱ

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅲ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅲ
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅲ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅲ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅲ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅲ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅲ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅲ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅲ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅲ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ